長野市　大豆島

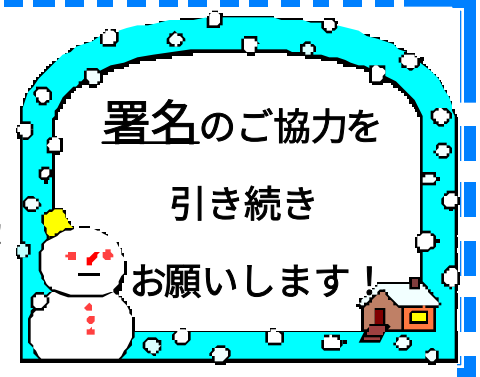
ごみ問題を考える会

ニュース　NO，8

2002年12月30日

ホームページ　http://www5e.biglobe.ne.jp/~mamejima/

「考える会」の会員募集中！
環境を守る輪を広げましょう！
TEL・FAX026-222-2396
事務局　　舟越



「プラスチック製容器包装圧縮梱包施設設置検討会」が開催されました。
検討会は長野市に多くの問題点を指摘！

12月25日「施設設置検討会」が開催されました。残念ながら私たちが要望していた「市民参加のガラス張りの検討委員会」ではなく、市民は傍聴のみで、専門家の方も当時まで発表されないという、「**すりガラスの会議**」でした。

検討会では様々な問題点が指摘されたにもかかわらず、座長の北澤氏が「施設計画は妥当である」と締めくくりました。

傍聴メモより

化学物質について

入江建久氏（住環境学、新潟医療福祉大学教授）

シックハウスの関係で、化学物質過敏症はごく少量でも影響起こる。軽微であるので、公害等泣き寝入りしていることが多い。

片谷教孝氏（環境科学、山梨大学工学部教授）

化学物質についてゴミが正常に入って生きていれば問題ないが、**異物が混入すると問題。**

冨安博氏　（物理化学、信州大学工学部教授）

1㎡50ｔくらいでは、化学反応を起こす問題はない。プラスチックは問題だが、**異物が入ると問題だ。**

渡辺義人氏（環境化学、応用生態学研究所主任研究員）

1年間実験として、チェックしたらどうか、はじめてから後で何か起きてもいけない。

アセスについて

山下恭弘氏(環境工学、信州大学工学部教授)

窓、建屋、壁の厚さもわからないでは計算のしようもない。

まとめ

北澤宏氏（座長）　（地質地盤、山地環境防災研究所長）

アセスをきっちりとして
問題点が出てきたら稼動を停止する。
チェック機能を設ける。
モニタリングをする。
これらの事を前提にして、施設稼動は妥当であると考えますがいかがでしょうか。

考える会の意見

○**多くの問題点や検討課題を残したまま、**「建設計画妥当」というのは納得できません

○**一極集中による複合汚染**について、全く議論されていませんでした。
大豆島への建設ということでなければ別ですが、考えてのことなら大いに問題があると思います。

○化学物質についてどの委員からも「**異物が入ると問題だ**」と指摘されています。私たちは**多種多様なプラスチックそのものでも問題**だと思いますが、それにしても異物が全く入らない分別というのはありえるのでしょうか

○**杉並区の場合1㎡３５ｔの圧力で被害**が出ました。

○市の説明責任と公開の原則を果たしていただくために、2点要望します。

・**検討委員会の公開**（市民の自由な参加、傍聴、質問）

・**検討委員会と市民との対話・公開討論会の開催**

以上の検討会をふまえ、
地区区長さん・審議委員さん、「施設建設について慎重に審議していただくよう、『**要望書**』」を送りました。

もうこれ以上
大豆島の空気を汚さないで！

不充分とはいえ、「住民説明会」や、今回の「検討会」が行われたのは、
「84人の意見書」と「3,185人の署名」をしてくださったみんなの成果です！！
その中で様々な問題点が明らかになりました。
今後、もっと多くの署名を集めたいと思います。皆さんの協力をお願いいたします。

これからも、みんなの手で、住みよい地域を守りましょう！！

2003年は住民の願いがかなういい年でありますように・・！

裏面も
お読みください

建設予定地が解体されてるけど、もう建設されるの？

と、聞かれました。
解体工事はは１１月２９日に「美整社」によって７，７９５万円で落札されました。

前日の１１月２８日に**町田環境部長と会い、**
「どうして、いま、解体工事の入札をするんですか？」
　と、たずねたところ。

「地元の要望で、あんなぼろい建物は早く取り壊してほしいと数年前から言われていたので、やっと、いま工事をすることになった。**建設の為ではないです。**」
　と、はっきりおっしゃいました。

同じ質問を**地元市会議員さん**にもお聞きしたところ
「あそこは、整地して**森を造る。**」
と、おっしゃいました。

お二人の言葉を信じたいと思います。

東京都町田市　小山田地区から

　小山田地区は大豆島のように焼却場などが一極集中していて、そこにプラスチック圧縮梱包施設の計画が予算化されました。多くの住民の「環境を守ろうの」運動の中で、圧縮梱包施設の建設は中止されました。
　これは、小山田環境対策連絡協議会が出された宣言です。ご紹介します。

小山田無公害宣言

１．すべてのゴミ処理施設の計画に当たっては、その施設周辺住民の生命と健康の完全な保証を前提とすること。既存施設に関しても、周辺住民の健康調査を早急に実施するとともに、住民と専門家を交えた周辺の有害物汚染状況の信頼ある調査と評価を行い、力を合わせて早期に「無公害小山田」の実施を図ること。

２．町田市廃棄物減量等推進審議会の答申（平成１２年１月２４日）にある「発生抑制」及び「燃やさない、埋めない」を基礎とした市のゴミ対策の具体的な将来計画を策定し、「煙突なき清掃工場の町田市」の実現を目指すとともに、その計画の中で廃プラスチック処理施設のあり方も明確に位置付けること。

３．ゴミ処理施設を市内に分散設置することは、リスクの公平な負担という民主主義の基本に基づいても当然のことであり、現状のような施設周辺住民の犠牲を前提とし、経済効率のみを重視するような一極集中処理体制は早期に改め、適切な分散化を図ること。

４．ゴミ行政が将来の町づくりに重要な役割を担うものであることを認識し、常に市民への情報開示を積極的に進めることは勿論、すべて計画作りの段階から市民と行政の好ましい協力関係を作り上げることに意を注ぎ、一方的な方針や計画の押しつけは行わないこと。